

平成 22 年 6 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007 年度～2009 年度

課題番号：19520083

研究課題名（和文）近代ユダヤ主要著作のデータベース化に向けて

研究課題名（英文）An Essay of Bibliographical Studies on Majors Works of Modern Western Jewish Thought

研究代表者 合田 正人（GODA MASATO）

明治大学 文学部 教授

研究者番号

60170445

研究成果の概要（和文）：まず、スピノザ、フランツ・ローゼンツヴァイク、レオ・シュトラウス、レヴィナスなどのユダヤ系哲学者について研究発表を行い、論文を執筆した。これらはフランスはパリの全イスラエル同盟古文書館での文献調査の成果である。第二に、二つの国際シンポジウムを開催した。ひとつはシムーン・ヴェイユについての会議で、その際、パリ第七大学のマルティーン・レボヴィシ氏を招聘することができた。二つ目は、在イスラエルの政治思想家メロンベン・ベンヴェニスティ氏を招聘しての、ユダヤ性と都市をめぐる会議で、いずれのシンポジウムについても小冊子を刊行した。第三に、当初の目標を果たすべくユダヤ研究のサイトを立ち上げることができた。また、ブーレッツの大部のユダヤ教論考の翻訳もほぼ終了した。幸いにも、発足間もない京都ユダヤ思想学会とも生産的な協力関係を築くことができた。

研究成果の概要（英文）：Through my research during these three years, I've obtained the following results. First of all, I read several papers on Jewish thinkers as Spinoza, F. Rosenzweig, Leo Strauss, E. Levinas, at the meeting of the various societies, and published them in the journals. In general, these works were the fruits of bibliographical research at the Archive of Alliance Israelite Universelle (Paris). Secondly, I could organise two international symposiums; one on Simone Weil, the other on Urbanism and Jews. For the former, I invited Martine Leibovici (Paris VII), and for the latter Mr. Meron Benvenisti, Jewish political thinker who habitually lives in Jerusalem. Thirdly, I've come to fulfill my mission by opening the web-site of Modern Jewish Thought called 'Dabel-ba. Finally, in addition of the publishing of the translations of the texts of Buber, Levinas, our work of the translation is almost finished, as regard to the monumental book of P. Bouretz.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1200,000	360,000	1560,000
2008年度	1100,000	360,000	1460,000
2009年度	1200,000	360,000	1560,000
年度			
年度			
総計	3500,000	1180,000	4680,000

研究分野：近代ユダヤ思想史

科研費の分科・細目：人文科学系、哲学、思想史(208)

キーワード：ユダヤ人、ユダヤ思想、メシアニズム、エマニュエル・レヴィナス、ハンナ・アーレント、フランツ・ローゼンツヴァイク、スピノザ、シモーヌ・ヴェイユ、ディアスポラ、パレスティナ

1. 研究開始当初の背景

(1)報告者は今から28年前に、フランス国籍のユダヤ系哲学者エマニュエル・レヴィナスの著作と出会い、彼のユダヤ教論考、タルムード読解を読むために、ユダヤ教ならびにユダヤ思想の学習を始め、その後、レヴィナス、ジャンケレヴィッチのみならず、主に20世紀の独仏のユダヤ系哲学者、思想家、文学者の研究を続けた。フランスのユダヤ人機関でも何度か文献調査を行った。

(2)レヴィナスとジャンケレヴィッチについては不十分ながら研究書を出版し、また彼らの著作を翻訳する作業にも従事した。

(3)本研究を開始する以前にも、ユダヤ性をめぐる共同研究(科研費)を行ってスピノザからレヴィナスまでの系譜について一応の道筋を示した。

(4)ユダヤ研究のための必須文献であるレオン・ポリアコフの大著『反ユダヤ主義の歴史』の邦訳(共訳)を完成させた。

(5)日本スピノザ協会で発表を行うと共に、フランスのユダヤ人機関「全イスラエル同盟」で文献調査を行った。

2. 研究の目的

(1)ここ十数年の間に日本におけるユダヤ研究は質量共に飛躍的に進展した。とはいえ、近代に話を限ったとしても、近代西洋思想史

にその名を残したユダヤ人哲学者たちの主要著作がほとんど邦訳で読めないのみならず、その概要すら知られていないというのが、偽らざる現状であることは残念ながら今も変わらない。しかるに、ユダヤ人、ユダヤ思想をめぐる様々な問題を検討し、それについて判断を下すためには、これらの基礎文献についてその内容を紹介する導入的作業が不可欠であろう。今回の研究を促した主要動機はここにある。これらの文献としては、メンデルスゾーンの『エルサレム』、マイモンの自伝、ヘスの『ローマとエルサレム』、コーエンの『ユダヤ教を源泉とした理性の宗教』、ローゼンツヴァイク『救済の星』などであった。これらの著者と書物について、今後さまざまな読者が語りうるための土台(今回はユダヤ教サイト)を作りたいということ、これが第一の目的である。

(2)と同時に、この予備作業を通じて、「ディアスポラ」「共に住む人」「ノアの末裔」などの諸観念、更には自己と他者、共生と法といった観念について省察を加えること、これが第二の課題である。

2. 研究の方法

(1)すでに基礎が出来上がった研究ではないため、大変地味な作業になるが、まず文献の蒐集、閲覧とその根気強い読解が不可欠であ

る。

(2)そのためには海外のユダヤ人機関の図書館との連携が不可欠となる。

(3)続いて、主要な著者たちの生涯と著作について、また彼ら主要著作についての伝的、書誌学的情報を蓄積し、それを一種の事典项目的に提示していく。

(4)様々な研究者たちの協力も得て、これらの著者たちの主要著作に関して、たとえ抄訳であっても、邦訳の作業を試みる。

(5)その一方で、今回はブーレッツの書物がそうなのだが、これらの著者たちの思想的連関を包括的に概観できるような書物の邦訳をも試みる。

(6)こうした作業の成果をユダヤ教サイトにアップし、調査を望む人たちの今後の調査、討論の場所を提供する。

(7)海外で活躍するユダヤ思想研究者を招聘し、意見を交換すると共に、彼らとの討論を公開する。

4. 研究成果

(1)次項で列挙したような学会発表と論文執筆を行うことができた。とりわけ、ローゼンツヴァイクについて自分の考えを提示できたことと、レオ・シュトラウスについての読解と翻訳はこれまで果たせなかった課題であった。

(2)この過程で、後藤英明氏、佐藤貴史氏など若きユダヤ思想研究者との知的交流を深めることができた。京都ユダヤ思想学会との関係についても同様のことが言える。パリの全イスラエル同盟でも貴重な文献調査を行った。

(3)まだ不十分ではあるが、ユダヤ教、ユダヤ思想について知識を得るだけでなく、それについて議論をたたかわせる、その基礎となるような場所として、ユダヤ教サイトを開設することができた。

(4)スピノザについて様々な視点から研究を行い、その成果をネグリ論などのなかで世に問うことができた。スピノザ協会でも発表し、この絆は今もスピノザをめぐる共同研究として継続されている。

(5)二名の海外研究者を招聘し国際シンポジウムを開催することができた。

5 主な研究業績

(6)ブーバーとレヴィナスの重要な著作の邦訳を刊行することができた。

[雑誌論文] (計 11 件)

1. 合田正人「城から城——レヴィナスとハイデガー」、『道の手帖：ハイデガー』河出書房新社、査読有、52-57 頁、2009 年 3 月

2. 合田正人、「ベルクソンの暗室——『創造的進化』第四章と映画」、『文芸研究』（明治大学文学部紀要）、査読有、108 号、37-52

頁、2009 年 3 月

3. 合田正人、「ローゼンツヴァイク『救済の星』と現代思想」（講演）、京都ユダヤ思想学会（同志社大学神学部）、2009 年 5 月 31 日

4. 合田正人、「哲学の終焉と新しい思考」（書評）、『思想』岩波書店、査読有、1023 号、232-239 頁、2009 年 7 月

5. 合田正人、「ディオニュソスの愛？——アントニオ・ネグリにおけるスピノザ、ニーチェ」、『思想』岩波書店、査読有、1024 号、86-101 頁、2009 年 8 月

6. 合田正人、「19 世紀フランス哲学——「人間の科学」の光と翳」、査読有、『明治大学人文科学研究科紀要』、第 62 冊、31-65 頁、2008 年 3 月

7. 合田正人、「翻訳と裏切り——フランスのハイデガー」、査読有、明治大学大学院文学研究科『文化継承学論集』、第 4 号、1-9 頁、2008 年 3 月

8. 合田正人、「誰であれひとの最果てに——ピエール・パシェへの序奏」、『文学』岩波書店、査読有、第 9 巻第 4 号、112-120 頁、2008 年 3-4 月

9. 合田正人、「ザロモン・マイモン——放浪哲学者の小径」、『哲学の歴史』中央公論社、査読有、別巻、224-230 頁、2008 年 8 月

10. 合田正人、「オリーブの葉もしくは虹の契約——レオ・シュトラウスと神学政治のメタ批判」、『思想』岩波書店、査読有、1013 号、273-288 頁、2008 年 10 月

13. 合田正人、「構造のパルス——メルロ＝ポンティの思想を通徹するもの」、『思想』岩波書店、査読有、1014 号、66-84 頁、2008 年 11 月

14. 合田正人、「アンリ・マルティネにおける美と狂気の現象学」、『法政哲学』法政哲学学会、査読有、2007 年号、217-226 頁、2007 年 6 月

15. 合田正人、「ブランショの幼年」、『思想』岩波書店、査読有、999 号、101-120 頁、2007 年 7 月

16. 合田正人、「ヤン・パトチカと戦争の存在論」、『思想』岩波書店、査読有、1004 号、64-84 頁、2007 年 12 月

[学会発表] (計 9 件)

1. 合田正人、「ボヤーリン兄弟『ディアスポラの力』をめぐって」（発表）、大阪経済法科大学アジア北太平洋センター主催シンポジウム『ディアスポラの力を結集する』（麻布台セミナーハウス）、合田正人、2008 年 2 月 6 日

2. 合田正人、「第三種認識とは何か——スピノザ・アラン・ヴェイユ」（講演）、シモー

ヌ・ヴェイユ生誕百年記念シンポジウム（明治大学、申請者主催）、2009年7月15日

3. 合田正人、Spinoza La métamorphose. Le cas Sartre/Bergson」（講演仏語）、ベルクソン『創造的進化』刊行百年記念シンポジウム（法政大学）、2009年10月23日

4. 合田正人、「グラマトロジーについて」（講演）、「言表文化研究会」例会（立命館大学）、2009年12月13日

5. 合田正人、「レオ・シュトラウスの思想をめぐって」（口頭コメント）、東京大学UTCP主催シンポジウム『レオ・シュトラウスの思想』（東京大学駒場キャンパス）、2008年10月29日

6. 合田正人、Kabbale inavouable des néants」（講演仏語）、上記ベルクソンシンポジウム（法政大学）、Masato GODA、2008年10月9日

7. 合田正人、「『知覚の現象学』はなぜあのようになっているのか」（発表）、日本フランス語フランス文学会全国大会（岩手大学）、合田正人、2008年11月8日

8. 合田正人、「多島海幻想」（講演）、明治大学人文研主催シンポジウム「沖縄映画とは何か」（那覇市青少年会館）、合田正人、2008年11月15日

9. 合田正人、Poétique des ruines（発表仏語）、上記ベルクソンシンポジウム、京都大学文学部、2007年10月20日

[図書]（計2件）

1 多賀茂、三脇康生、合田正人、他、『医療環境を変える』、京都大学学術出版会、査読有、213-236頁（総426頁）、2009年8月

2. 合田正人、『世紀を超える実存の思想』、明治大学リバティアカデミーブックレット、査読有、総48頁、2007年3月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

合田 正人 （ GODA MASATO ）

研究者番号：60170445

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし